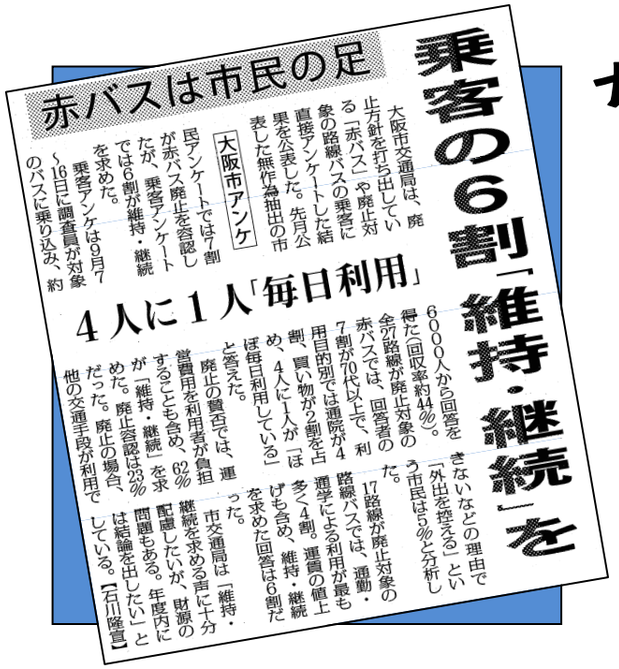
赤バスなくさんといて！

乗客の6割が「維持・継続」求める（大阪市のアンケート調査結果）



赤バスは市民の足

乗客の6割「維持・継続」を

4人に1人「毎日利用」

大阪市交通局は、廃止方針を打ち出している「赤バス」や廃止対象の路線バスの乗客に直接アンケートした結果を公表した。先月公表した無作為抽出の市民アンケートでは7割が赤バス廃止を容認したが、乗客アンケートでは6割が維持・継続を求めた。

大阪市アンケ

乗客アンケは9月7～16日に調査員が対象のバスに乗り込み、約6000人から回答を得た（回収率約44％）。

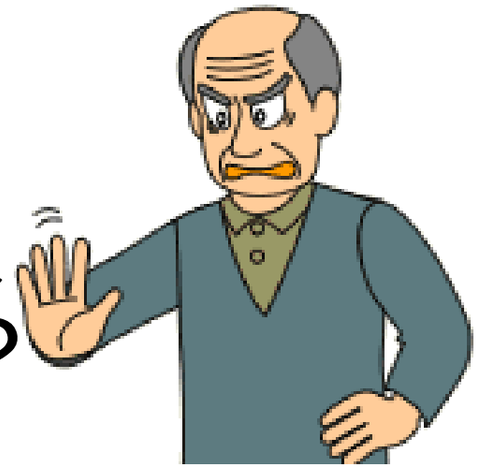
全27路線が廃止対象の赤バスでは、回答者の7割が70代以上で、利用目的別では通院が4割、買い物が2割を占め、4人に1人が「ほぼ毎日利用している」と答えた。

廃止の賛否では、運賃値上げも含め、維持・継続を求めた回答は6割だった。

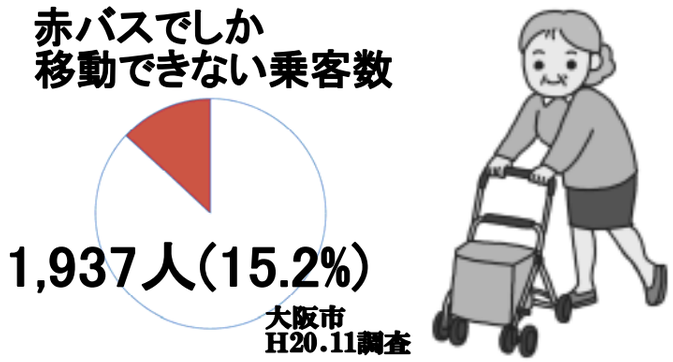
廃止容認は23％で、「維持・継続」を求めた。廃止容認の理由は、他の交通手段が利用できないなどの理由で「外出を控える」という市民は5％と分析した。

17路線が廃止対象の路線バスでは、通勤・通学による利用が最も多く4割。運賃の値上げも含め、維持・継続を求めた回答は6割だった。

市交通局は「維持・継続を求める声に十分配慮したいが、財源の問題もある。年度内には結論を出したい」としている。【石川隆宣】



年寄りいじめ
ちょっと待った！



廃止されたら、足の弱い人お年寄りがたいへん困ります

大阪市は、大阪市内２８路線で運行し、市民の「足」として走っている「赤バス」を全て廃止する計画を発表しています。「経済性、公共性が著しく低い」ことがその理由です。

しかし、赤バスは、お年寄りや足の不自由な方を中心に「市民の足」として大変頼りにされています。乗客の四人に一人は「毎日利用」しています。また、大阪市の平成20年の調査でも「赤バスでしか移動できない乗客数」は一九七三人(全体の15%)もおられます。地域からは「赤バスがなくなると、どうやって病院に行ったら良いのか」などの不安の声が寄せられています。

また大阪市は、ＷＴＣのある南港・咲州地区の開発に一〇〇億円を投資するお金があるのなら、赤バスなど市民サービスや福祉充実にお金を使うべきではないでしょうか。

【取扱団体】

発行:「赤バスの存続を求める市民連絡会」（連絡先：大阪市対策連絡会議　6351-9954）